

「面縄小学校の目手久八月踊り伝承活動の取組」

1 学校名

伊仙町立面縄小学校

2 学年・人数

全校児童121人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成29年7月24日（月）職員研修（本校パソコン室）職員対象

平成29年9月14日（木）全体練習（本校校庭）全児童と職員対象

(2) 発表の日時・場所

平成29年9月24日（日） 秋季大運動会（本校校庭）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

目手久八月踊り（めてぐはちがつおどり）

(2) 由来

伊仙町目手久集落で古くから伝承されている八月踊りは、立踊りとも呼ばれ、旧暦7月の浜下り、集落の祭り・行事や祝事の際の豊年踊りとして踊り継がれている。平成27年4月17日に鹿児島県無形文化財に指定された。

(3) 構成等

男性を内、女性を外に円形の隊形で踊られ、太鼓の響き、男女の声の重なり、テンポの加速が特徴である。歌は、男性が歌い出し、男性から女性へと歌い継ぎ、この間一貫してテンポを上げていき、テンポを上げきったところで太鼓の乱打とともに終わる。

5 保存会や地域との連携の具体

ここ数十年、運動会において全校踊りとして「上面縄ションマイカ踊り」と隔年で実施している。

附属幼稚園児も一緒に参加しているので、「目手久八月踊り」と「上面縄ションマイカ踊り」は児童や園児に定着している。従って、練習も運動会前の約30分程度である。

保存会の方々も練習方法や発表の仕方等について熟知しているので、指導や出演依頼については、教頭の電話連絡だけで確認できる。

練習時には約20名、運動会当日には約40名以上の参加があり、本活動は、地域にも十分浸透している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

伝承団体の方々には、運動会時の指導だけでなく、「かごしまの教育」県民週間においても、幼稚園と低学年の「昔の遊びを知ろう」や4年生の「わらじ作り」の講師として御指導いただいている。また、その後、担当学年児童との交流給食も実施している。

この文化財伝承活動を通して、様々な教育活動に対しての支援をいただき、地域の方々との交流が緊密になった。

7 取組の様子



【職員研修（夏季休業中）】



【運動会での発表】

8 参加児童・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【小学生】

- テンポがだんだん速くなるので、とても楽しい気分で踊れた。
- たくさんの人たちと一緒に踊れたので楽しかった。
- 手と足の動きが難しかったが、練習しているうちにできるようになり、本番もしっかりと踊ることができうれしかった。

【職員】

- 地域の踊りを一緒に踊り、地域の方達との一体感を味わえた。
- 運動会当日は、たくさんの方が踊りに参加してくださり素晴らしい盛り上がりであった。
- 研修では、歌詞の意味やどういう時に踊るのかなどを教えていただき、勉強になった。

【地域の方々】

- 子どもや先生方が、一生懸命に覚えて踊ってくれて、うれしかった。
- 子どもたちが、短時間でしっかり踊りを覚えてくれたのが素晴らしいかった。